

コロナ感染者減少で制限緩和 多くの学校 不安払拭できず二の足

学校での新型コロナウイルス対策として一般的になった「食事中は机を前に向けて会話を控える」との制限を緩和する動きが出始めている。全国的な感染者数の減少傾向を受けたもので、「黙食」に寂しさを感じていた児童生徒が日常の学校生活を取り戻す一歩と言えそうだ。ただ、感染への不安が払拭できていないとして二の足を踏む学校が少なくない。

給食、会話徐々に

「いただきます!」。6月16日、千葉県習志野市立秋津小の6年生のクラスに元気な声が響いた。4人一組で少し隙間を空けて机を向かい合わせ、白米や豆腐料理をおいしそうに頬張る。ただ、会話を控えるルールは残り、時折アイコンタクトしてほほ笑んでいた。

秋津小が5、6年の一部で「対面式」の給食を再開したのは6月上旬から。5年の伊勢崎龍心君(10)は「対面になって楽しいし、おいしく感じる。早くお話もしたい」と笑顔だった。



給食事に飛沫が拡散しないよう、文部科学省は衛生管理マニュアルなどで「机を向かい合わせない。大声での会話を控える」との対策を例示してきた。食事中は言葉を発せず、教室が静まりかえる光景が当たり前になった。一部では、子どもの机の前方と左右に透明な板を設置する徹底ぶり。「学校が楽しくない」と感じる子どもが増え、黙食に象徴される感染対策が要因とも指摘される。

感染状況の改善が見えた今春以降、千葉県や福岡市、宮崎市などがルール緩和を模索し始めた。高島宗一郎福岡市長は6月7日の記者会見で「会話も含めて食育。(黙食は) コロナという緊急事態に応じた異常な状況」と指摘した。

福岡市立姪浜中は、市教育委員会が13日に出した「大声でなければ会話は可能」との通知を受け、机を前に向けたままで会話を認めるルールに変更。給食時に隣同士のおしゃべりや笑い声が起こるようになった。3年の春日野禅清さん(15)は「まだ慣れないけど、にぎやかになった」と晴れやかな表情を見せた。

ただ、全国の多くの学校では黙食が続く。別の福岡市立中校長は「保護者に反対の声がある」と明かし、解禁をためらう。姪浜中でも3年の女子生徒(15)が「緩和はうれしいけど、部活や受験のことを考えると黙食の方が安心する」と控えめに話した。

(6月25日(土) 秋田魁新聞より一部抜粋)

<学校の感染対策>

新型コロナウイルスの感染対策をしながら、学校運営を継続させるため、文部科学省は「衛生管理マニュアル」を作成。小中高校などに教室の換気や座席間隔の確保、適切なマスク着用や手洗いといった予防策を求めている。例えば、合唱は特にリスクが高いとして、マスクをした上で他人とできるだけ2メートルの間隔を空けると明示。

一方で今年6月、熱中症防止を優先させるため、体育や運動部活動ではマスクを外す指導をするよう教育委員会に通知を出した。